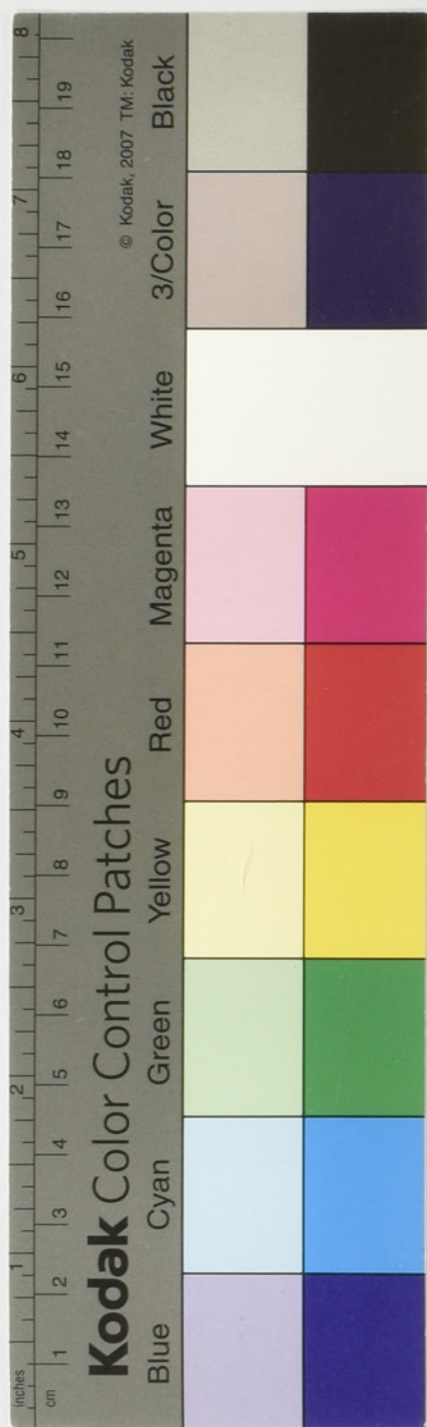
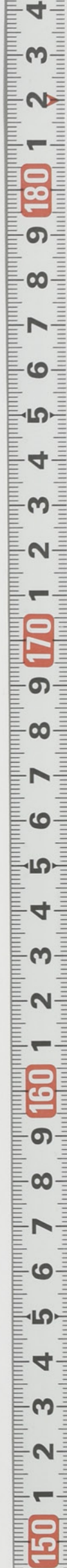




大谷九太郎
村市書

享保九年御尋湯治
竹鴻書



江戸一箇條之御請

一元禄^又壬申年二月十日候より出船
浦後福浦^の着^る二月廿日候福浦
出船同廿六日朝^の時^に行^く浦^の内^の船^は
中^の所^に是^の船^は仕^へ候^に是^の中^の以^て是^の船^は大^に取^ら
中^の申^は仕^へ候^に不^可得^に申^は同^の廿七日^に
濱田^の船^は申^は同^の廿八日^に是^の船^は式^に被^り相^見候^に中^の以^て

三艘之寸八船三艘を浮船と増し度人
三拾人斗見^ル由^ル右之浮船より船より
船八九名程沖を通り大坂浦より市廻り
川依^ル有^ル内より人々陸に残^ル増し所不^レ船
ありと書^ルおけし方と船ありと書^ル何と
とあり相^レ違^ル故^ニ一人を通^ル梓^ルとあり其
國^ノか^レらんか^レらん^ノ者^ニより^ル此^ノ船^ノに^レ候

元來目^ノ中^ニより地^ノ方^ノ頃

河公方様代^ニより年^ノ頃^ノ毎^ニ年^ノ渡^ル海^ノに^レ候
時^ノより^ル何^ノより^ルと^レありた^ル未^レだ^ニ相^レ違^ルに^レ候
頃^ノ此^ノ船^ノ北^ニより南^ニ渡^ル有^ルと^レ年^ノ一度^ノ宛
廻^ル主^ノより^ル船^ノ取^ル来^ルに^レ元^ノ來^ノ二^ノ月^ノ止^ル日^ノ
於^ニ船^ノ拾^ニを^レ渡^ルに^レ致^ス出^ル船^ノ張^ル凡^ニ途^ノに^レ候
に^レ此^ノ船^ノ拾^ニを^レ渡^ルに^レ致^ス此^ノ船^ノ拾^ニを^レ渡^ルに^レ致^ス此^ノ船^ノ拾^ニを^レ渡^ルに^レ致^ス

[illegible]

吟味侍所の浦に也。此處は伏見にあり
船寸一冊の上には唐人志大坂の方と終
武拾遺人の中庭舟を元々存候行傳
二月廿七日午時出船侍所にて何れも
市井の屋敷より舟に乗る唐人の振舞ひ
津鮑女の立寄り細頭巾を着て唄かきし
是より取次出船四月朔日石切濱田

萬里江天
 一望無際
 雲霧初開
 津浦已平
 望不見
 入津信
 有越之孫
 今年車
 買月六日
 行將渡海
 水以
 水自足
 是也
 右為大
 民決地
 而持不
 休也
 濟南
 安為述
 主高
 吟味
 仕如
 世與
 武具
 於一
 持不
 休公

并祈商榷之

一九六六 庚酉年二月下旬某子出船雲霧
雲津^の 忘^る 乃^は 二^に 月^づ 初^は 次^は 雲津^の 出^で 船^は 隠^れ 海^へ
海^は 後^は 福^く 満^{まん} ^の 未^は 忘^る 四^に 月^づ 十^に 日^び 雲^は 時^は 福^く 満^{まん}
出^で 船^は 同^は 十^に 七^に 日^び 竹^は 橋^は ^の 未^は 忘^る 信^は 知^る 人^ら
大^は 分^は 指^は 伏^は 付^は 隠^れ ^の 今^は 陰^は 味^は 仕^は 度^は
石^は 増^は ^の 中^は 乃^は 時^は 既^は 相^は 見^は ^の 中^は 乃^は 乃^は 人^ら

下等書人入選行書之十八日
八時出船は同大七日辰午申建
鳥取市住進上戸河内爲遊
有妻と長崎の遊主後成妻年
渡海は旅度人太分席以可移
不渡帆は

新洲之國條之新語

一竹海有之、東細書付指之松爲
師付以古來渡海、弘治水主古相尋
已此地而物也、書寫書之付及之
通書付之pp

本竹之

一 松

一 梅

あまのふ
あまのふ
あまのふ
あまのふ

一 椿

一 竹

一 楓

一 松

一 竹

一 竹

一 松

一 松

あまのふ
あまのふ
あまのふ
あまのふ

一 松

一 松

あまのふ

一 松

一 松

一 松

一 松

一 松

一 松

一 松

一 松

くみ

いちご

いふら

あふみちへきふたつたて

くみへきふたつたて

一 波地大川に流るる水は

もみ水もみ水は

百番供ふ外は

まはる山は

まはる

あふみちへきふたつたて

一 竹馬東酒蔵へ

あふみちへきふたつたて

あふみちへきふたつたて

牙所同條也

一竹海ふち鼻外歎然と云々

而海は為述はた通書付るに依

鳥獸之類

一みち鼻 一神こ

一氣 一山雀

一雀 一何如鳥

一鳩 一ひよ鳥

一うらひ鳥 一田抄雀

一かきめ 一鶺鴒

一なまこ 一洗むめ

一鴛鴦 一くまたり

王外書

并新公同陳

一唐人相渡時高伯春與王相渡
時高白遠山寺得為地古來
此方志三月渡海七月前渡帆估
年渡海即此味仕人出此後方

渡海小唐因國意遠可操
其後數年相會乃唐人所
前渡海仕人亦在唐以元祿
元年甲申二月唐人初渡海仕人
其後仕人唐人渡海時高王亦
相會

并河七箇之御書

一 仙者國の所為に波海に教を授け

て行きて朝暮に波海に教を授け

て行きて朝暮に波海に教を授け

て行きて朝暮に波海に教を授け

て行きて朝暮に波海に教を授け

仙者國の所為に波海に教を授け
て行きて朝暮に波海に教を授け
て行きて朝暮に波海に教を授け
て行きて朝暮に波海に教を授け

石之通に波海に教を授け

て行きて朝暮に波海に教を授け

て行きて朝暮に波海に教を授け

仙者國の所為に波海に教を授け

大谷九左衛門

仙者國の所為に波海に教を授け

仙者國の所為に波海に教を授け

村川市郎

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, on aged paper. The text is arranged in several vertical columns. The paper shows signs of wear, including creases and discoloration.

3
22
1

大谷家文書